

【長期的な取組み】

大度～山城の海岸を持続的発展のモデル拠点にしよう

- 大度・米須・山城の海岸は沖縄戦跡公園の中であって、美しい自然と様々な歴史的遺産が集積された場所である。ウミガメの産卵地であり、若者がサーフィンを楽しむ場でもある。また沖縄戦終焉の地で慰霊塔が集中するなど歴史的な事跡の多い地域である。
- 記念碑建立予定の大度園地は、週末には多くの市民が集まる場となっているが、同園地は、敷地が狭く、駐車場不足、便益施設の老朽化、進入路の安全確保等の多くの課題がある。
- 大度園地(周辺地域含む)を歴史的な学びの場と自然体験の場とするために、各種施設の整備充実を図る必要がある。期成会では沖縄県や糸満市とも一体となって、同海岸一帯の総合的な保全整備を図り、持続的発展のモデル拠点とし、また観光など地域活性化の拠点を目指す考えである。多くの市民、県民の参加・協力を期待する。

ジョン万次郎上陸之地記念碑を糸満市大度に建立しよう

～開国を導いた男ジョン万次郎～



■アメリカに渡った万次郎

万次郎(ジョン万次郎 本名：中濱万次郎)は、1827年土佐国幡多郡中ノ浜の貧しい漁師の家に生まれ、1841年仲間4人とともに漁に出て嵐に合い遭難。奇跡的に太平洋の無人島鳥島に漂着。その後アメリカの捕鯨船(船長：ホイット・フィールド)に助けられてハワイ、ホノルル寄港後、万次郎だけアメリカ本土に渡る。アメリカの文明にふれ民主主義や男女平等などを学びながら10年間、捕鯨の仕事に勤める。

■大度浜上陸と琉球への影響

帰国を決意した万次郎は鎖国を続ける日本への直接の帰還を避け、1851年琉球国の大度浜(旧摩文仁間切小渡浜)に上陸する。琉球は海外との交易が盛んであり、武器を持たない平和な国であることを万次郎は知っていた。上陸後、万次郎一行は大度・米須の人々のもてなしを受けた後、豊見城間切の高安家で半年暮らし、役人の取調べを受けつつ村人との交流を深めた。通事の板良敷朝忠にアメリカの社会経済や民主主義を教え、当時の琉球に大きな影響を与えた。

◇日本帰国と開国への多大な貢献

琉球滞在后、万次郎は薩摩、長崎を経て故郷土佐に帰国。その後、幕臣に登用され、勝海舟・福沢諭吉をはじめ幕府高官に西洋事情を教示し、咸臨丸の訪米に船長代行として活躍する。時の徳川幕府の政策、考え方に影響を与え日本の開国、近代化に大きく貢献した。



ジョン万次郎上陸地点(大度浜海岸東端)



大度園地にある「かあみぐあー」



上陸地



—— ジョン万次郎上陸之地記念碑建立期成会 ——